

岐阜県立看護大学大学院修士論文審査基準

1. 研究課題選択の経緯が適切である
 - 1) 研究課題に関して自施設（あるいは研究取組を行なう施設）における事実・実態が確認されている。
 - 2) 研究課題に関して同業他施設における事実・実態が文献等において確認されている。
 - 3) 上記 1) 2) においては自施設・他施設に関する情報収集および看護実践家との交流が行なわれている。また研究課題に関する研究の動向が把握されている。
 - 4) 研究課題の意義（看護実践の現状を改革・改善する研究的取組として）が明確にされている。

2. 研究課題を追究する方法として、看護実践の現状を改革・改善する方法が適切に用いられている。
 - 1) 研究課題について自施設で取組むための方法が考案されている。
 - 2) 研究課題について自施設で取組む努力が行なわれている。

3. 研究課題の追究の経過および成果を踏まえ、今後の課題が考察されている。
 - 1) 研究課題について取組の経過および成果が示されている。
 - 2) 研究課題について取組の成果を踏まえ、取組の意義と今後の課題が考察されている。

4. 研究課題の追究に必要な倫理的対応が適切に行なわれている。
 - ・ 本研究科の倫理基準に基づいたものである。

5. 論文が適切に記述されている。
 - 1) 論旨に一貫性がある。
 - 2) 指定された様式に基づいて著されている。

岐阜県立看護大学大学院課題研究レポート審査基準

1. 研究課題選択の経緯が適切である
 - 1) 研究課題に関して自施設（あるいは研究取組を行なう施設）における事実・実態が確認されている。
 - 2) 研究課題に関して同業他施設における事実・実態が確認されている。
 - 3) 上記 1) 2) においては自施設・他施設に関する情報収集および看護実践家との交流が行なわれている。
 - 4) 研究課題の自施設における意義（看護実践の現状を改革・改善する研究的取組として）が明確にされている。

2. 研究課題を追究する方法として、看護実践の現状を改革・改善する方法が適切に用いられている。
 - 1) 研究課題について自施設で取組むための方法が考案されている。
 - 2) 研究課題について自施設で取組む努力が行なわれている。

3. 研究課題の追究の経過および成果を踏まえ、今後の課題が考察されている。
 - 1) 研究課題について取組の経過および成果が示されている。
 - 2) 研究課題について取組の成果を踏まえ、取組の意義と今後の課題が考察されている。

4. 研究課題の追究に必要な倫理的対応が適切に行なわれている。
 - ・ 本研究科の倫理基準に基づいたものである。

5. 論文が適切に記述されている。
 - 1) 論旨に一貫性がある。
 - 2) 指定された様式に基づいて著されている。

岐阜県立看護大学大学院博士論文審査基準

- (1) 問題意識・課題が適切であること。
 - ① 問題意識・課題設定が適切であり、独立した学術発表と認められる。
 - ② 看護学を実践との関連において捉え、看護学の専門領域を細分化するのではなく、どの専門領域にも共通する総体的視野で見通している。
 - ③ 看護実践の改善・改革に貢献するものである。

- (2) 研究方法が適切であること。
 - ① 看護実践事象を総体的視野で捉えて現状分析を行なっている。
 - ② 看護の対象となる人々の側の条件、健康問題の種類、健康レベル、ライフサイクルの時期、看護提供の場について、横断的に捉える方法で取り組んでいる。
 - ③ 独自の視点から看護実践の特質に適した研究方法の開発に取り組んでいる。
 - ④ 基本的な用語の概念、史実の確認、分析の枠組み等が適切である。

- (3) 結果が的確に示され、結果に基づき考察がされていること。
 - ① 信頼性のある資料に基づき、理論的もしくは実証的な内容で論述している。
 - ② 検証と論述に正確性がある。
 - ③ 研究課題に直結（関連）した看護行政・政策、看護倫理、看護学教育に関する検討がなされ、適切に報告されている。
 - ④ 看護実践理論の体系化に貢献するものである。

- (4) 論文の構成と記述が適切であること。
 - ① 論旨の明確性、論証の適切性がある。
 - ② 引用・参考文献の書き方、文章および図表の表現が適切である。

- (5) 倫理的対応が適切に行なわれていること。